

第10回総会が開催され、定着した各委員会の活動を承認 「友の会ウィーク」や「かるた会」なども好評をえる

4月22日(土)午後2時から葛飾図書館友の会の第10回総会が中央図書館で開催されました。朝野友の会会長の挨拶の後、「図書館と車の両輪としての友の会のこれまでの活動に感謝するとともに今後の発展と協力を期待する」との鈴木中央図書館長の祝辞をいただきました(右写真)。議長を選出したあと、平成28年度の活動について各委員会から報告されました。以下、主な報告内容です。



〈総務委員会〉

毎月第3土曜日午後中央図書館での入会受付と図書清掃・書棚整理及び毎月第3週の水曜日午後、綾瀬の都立もう学校からの依頼による図書室でのボランティア活動。

また11月の「友の会ウィーク」には20を超えるイベントに主催者を含め600名以上が楽しんだことや1月3日の5回目を迎えた「新春かるた会」は多くの参加者が熱戦を繰り広げたこと。

〈広報委員会〉

季刊紙「友の会通信」と翌月のイベント情報を会員に提供する「たんしん」の発行や2ヶ月毎のキーワード読書会の開催、ホームページの更新など。

〈ナイトシアター委員会〉

毎月第2土曜日の夜、新旧の洋画と邦画を取り混ぜ、DVD映画を上映。13回の開催に、平均50名以上の参加者が鑑賞。

〈児童サービス応援委員会〉

毎月第1土曜日の午後3時半から中央図書館の「おはなしのへや」でのおはなし会を開催し、子どもや大人の参加を得た。図書館との連携もうまくとれて安定した活動ができたことや7月の夏休み開始直後の「自由研究おうえんたい」も定着し50名以上の参加があったことなど。

〈CD・DVDコンサート委員会〉

毎月第3日曜日の午後、図書館所蔵の音楽・映像資料を利用したクラシックコンサートを開催し、特にリクエスト・コンサートを3回、『フジコ・ヘミング特集』には60名を超える参加者があり、いずれも好評で賛同をえたことなど。

以上、各委員会の報告の後、会計報告があり、賛助会員10名、一般会員61名による会費と、39口にのぼる寄付金の収入でほぼ予算どおりの執行ができたこと、相違ないとの会計監査報告も行われ、すべて拍手で承認されました。

《平成29年度の活動計画》さらに着実に前進 「リサイクル本の処理作業」も

次に平成29年度の活動計画が提案されました。各委員会は昨年度同様の活動を着実に続け、会員のさらなる協力を得ていくこと、新宿図書センター休館にともなう書籍のリサイクル作業に協力すること、第9回「友の会ウィーク」の説明会を7月22日(土)午後2時から開催すること、また来場者のアンケートを記入してもらうためのクリップボードを購入するなどの予算案とともに、これまた拍手で承認されました。なお、来年の「かるた会」では『かつしか生き物トランプ』を利用してほしいとの意見も出され、検討していくことになりました。

今年も盛況だった「ライブラリーカフェ」

総会後は休憩時間をとり、入会手続き・会費の納入などを行ったあと、4つのカフェを開店し、一般の参加者や図書館の友の会の担当職員の方々などが来店してくれました。

ライブラリーカフェ1号店 イベント活動について

活動の情報発信が重要

友の会で新しい活動が始められないか、というテーマでアイデアを出してもらいました。そのためにブレインストーミングで使うKJ法をとりいれました。アイデアを付箋に書き込んでそれらをグルーピングして構造化する方法です。最終的に文章化すると次のようになりました。

【館外に飛び出して刺激を受けよう】

「ゆいの森あらかわ」はどうでしょう。見学先は図書館だけでなく美術館や博物館まで広げてよいでしょう。

【大人の読書を支援しよう】

ビジネスパーソンのための学習会をさっそく開きましょう。さらに本質にせまるという意味で、大人のための童話と絵本という切り口が面白い、という話になりました。これは友の会ウィークで実施するのが良さそうです。

一歩一歩、提案された活動を実現していきたいと思います。なお今年のライブラリーカフェでは一気に3人の新会員をお迎えすることができました。空前の大成功だったといえましょう。(店主 朝野熙彦)



ライブラリーカフェ2号店 毎日新聞「余禄」を読む

読むことは脳を若くさせる？

毎日新聞のコラム「余禄」を読むにピンチヒッターで参加しました。男性1人、女性5人の参加で、1人ずつ「余禄」を読みました。「文字を間違えず、他の方にわかるように、文意を考えてハッキリ読む」。これが意外に難しかったようです。

頭を使い滑舌もよくは脳を若返らせるのでしょうか？

読み終わった後は、コラムの内容について話し合いましたが、歳も違い生活環境も違っていると、やはり記事のとらえ方も様々でした。

短い時間でしたが定期的にこんな講座があったら楽しいかなと感じました。(店主 鶴岡幸子)



ライブラリーカフェ3号店 映画と本と私

思い出話にも花が咲く

私がナイトシアターを担当しているということもあり、こんなタイトルになりました。以前作った今までの上映作品リストと、アンケートで集計した上映作品の人気ランキングをもとに、皆さんにそれぞれの映画やその原作についてお話いただきました。

人気上映ランキングでは、なんでこれが入ってないのかなど、皆さんの声をきけました。また、ランキングには若草物語など女性に人気のある作品が多く入っているなどの指摘がありました。

私が原作本も持っていき、古い本も訳者が違うと残しておくなど、図書館方による本の扱いも教えていただきました。そのほかにも、ご自分が若い時ご覧になった映画の思い出やその当時の思い出など、いろいろ楽しいお話がきけました。最後にナイトシアターの上映で、字幕が見つらいとお声をよくいただくと話したところ、吹き替えで上映したらどうかとの提案までいただけ、充実した話し合いになりました。(店主 加藤和也)



ライブラリーカフェ4号店 リサイクル本の処理作業を体験 はんことシールをペッタンペッタン

昨年までこのカフェでは館内の書棚の整理と書籍の汚れをスプレーで薬品をかけて拭き取る作業体験を行ってききましたが、今年のカフェはリサイクル本の処理作業。図書館では内容が古くなったものや汚れ・イタミが目立つなどの書籍を中心に適宜、除籍を行っているといえます。しかし閉架倉庫のスペースも限られ、また新宿図書センターの一時休館などにより、大量の書籍の除籍が必要だということです。今年は数人の来店者が図書館員に除籍方法を教えてもらい、実際に体験しました。



まず本の奥付に「この資料は葛飾区図書館で、除籍処理したものです。」と書かれた赤いスタンプを押し、次にバーコード入り所蔵図書館名シールの上に、花菖蒲をあしらった『リサイクルく除籍済み』の緑のシールを貼って終了という作業です。ハンコとシールをペッタンペッタンと押し、貼るのリレーで、単純な繰り返しですが、エネルギーと根気が要ります。“奥付”というにも関わらず、本によってはなんと表紙の裏にあたり、巻末近くにあたり、検索には一苦労するシーンも…。用意された除籍用書籍の全てを1時間かけて処理しました。(店主 中里隆二)

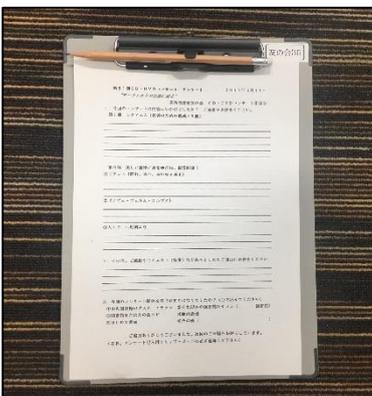
さよなら市に向け、リサイクル本の処理の研修を受ける 7月から本格的に新宿図書センターでスタート

6月15日(木)午後2時から新宿図書センター休館にともなうリサイクル本の処理作業のリハーサルが行われました。この作業は総務委員会が参加者を募り、また友の会役員が声をかけた会員12名が参加しました。センターの保存庫にある約4万冊の処理手順を図書館担当者から説明を受けました。この主な作業は総会後のライブラリーカフェで体験した「除籍処理」の赤スタンプを奥付付近に押すことと、バーコードの上にリサイクルシールを貼ること、そして、本に貼られている丸見えのICタグには液を塗って剥がすという作業が新たに加わりました。

12月上旬に開催予定の「さよならリサイクル市」に向け、新宿図書センター2階の保存庫でのボランティア作業は7月から月曜日及び祝日などを除く午前10時から午後4時の間に本格的に開始されます。会員の皆さん、都合のよい時間帯に訪れてリサイクル作業に協力・参加して活動してみませんか。



アンケート記入用クリップボードを購入 記入の協力と返却のお願い



友の会では毎月、ナイトシアター、CD・DVDコンサート、それに毎年11月の「友の会ウィーク」には特別講演会や参加団体によるイベントなどを開催しています。来場者の方にはアンケート用紙をお配りし、感想や要望などの記入をお願いしています。アンケート結果は、生の、そして貴重なご意見を知る方法の一つであり、今後の活動に大きな勇気と来場者の皆様のご希望を反映したイベント企画を立てるヒントにもなっています。これまでは席に座ったまま記入していただいたり、記入用の机とえんぴつを用意していましたが、今年度はえんぴつが挟めるアンケート記入用クリップボードを50冊購入しました。これらは会にとって貴重な備品になりました。記入のご協力とお帰りの際は必ず会場出口での返却をお願いいたします。

葛飾 友の会 検索

クリックで葛飾図書館友の会HPへ

アドレス : katsutomo.jimdo.co

ホールや託児室も完備 開放感のある自由な空間



入梅前の6月3日(土)、この3月町屋にオープンした「ゆいの森あらかわ」の見学会を行いました。参加者は友の会会員に葛飾中央図書館から職員2名も合流した総勢10人。見学前に館長から挨拶を頂き、あらかじめ映像で館のあらましのレクチャーを受けてから、係の方のゆき届いた解説付きで地階から地上5階建ての全フロアを案内して頂きました。館の構成は1、2階の「子どもひろば」、2、3階の「吉村昭記念館」を含む荒川区の中央図書館で、その斬新なコンセプトに驚くことしきり。「静かに」とおしゃべりを制止されない図書館はここ以外にまずないのでは？ 飲食可の表示があるテーブルには何と本を持ち込むのも「可」と！(1階にはカフェも完備しています)

施設面ではエントランスから入ってまず目につく階段式の座席を持つ「ゆいの森ホール」。イベント向きの照明を備えた施設でありながら、普段は仕切りを開け放して座席で本を読むのも自由。側面の上方はガラス張りでの上階からも見下ろせ、開放感もある魅力的な空間です(側面一面の棚に見えるのは絵本)。一階には託児室も完備し、保育士も常駐。「吉村昭記念館」には学芸員、図書館スタッフもすべて司書とか。まさに〈本と人、地域を結ぶ〉「ゆい(結)の森あらかわ」なのでした。なお当日、正面入り口で車で到着されたばかりの荒川区長と遭遇し、記念写真と一緒に収まって頂くというサプライズがありました(中央朝野会長の右隣の方です)。



☆☆☆☆☆ **「葛飾図書館友の会」で一緒に活動しませんか!** ☆☆☆☆☆

『友の会』は多くの会員によって活動しています。図書館を利用されている方、活動趣旨に賛同される方々、是非ご入会いただいて、あなたの図書館に関わるいろいろなアイデアを少しずつ実現してみませんか? 原則として第3土曜日の午後1時から3時まで中央図書館内で、また友の会の開催イベント時でも直接の入会受付を行っていますので、是非ご利用ください。年会費は一般会員1,000円、賛助会員は1口2,000円です。上記の方法が利用できない場合、入会希望者は中央図書館に入会届をご提出の上、年会費を右記の口座に納入してください。図書館での年会費の直接納入はできません。「通信欄」に一般あるいは賛助会員かを明記の上、29年度年会費とご記入下さい。また1口500円の寄付も大歓迎です。払込手数料は窓口では130円、ATMからでは80円です。恐れ入りますが、ご負担をお願いいたします。

ゆうちょ銀行	口座番号	00100-7-392065
	口座名称	葛飾図書館友の会

入会届はHP (<http://katsutomo.jimdo.com/>) からダウンロードできます。

お問い合わせ先: 中央図書館友の会担当者(打越さん、吉村さん、白井さん、川井さん) TEL 03-3607-9201

色えんぴつ

久しぶりに講座を受けた。「発信力向上研修」と題した「行列ができる講座」。「読まれるチラシ」を作るテクニクを学ぶ、区の職員や協働団体向けの講義。講師はカリスマプランナーの女性。簡単にいえば人を集める、行列ができるイベントとそのチラシの作り方のヒントを教授するというのが冒頭、実際に発行された各種のチラシを見比べ、グループで検討して順位をつけ、その理由を発表する。そして手にとっても、キヤッチコピーのポイントなどを具体的に説明してもらった▼面白かったのは、人が集まらない講座の言い訳トップ3。3位は悪かったから、良かったからと天気のせいにする、2位はみんなの意識が低いから。そして栄えある(?)1位は来ないのが悪い、やることに意義がある、さにはいつか報われるはず、という開き直りと自己満足だという。番外編として地域性、場所・風土に合わなかったという言い訳も。ほんとは「企画力」と「広報・PR力」が不足している自分たちに責任があると結論付けている。耳が痛い▼もつとも大切なことはまず企画で、地域性や年齢・性別・ライフスタイルなどを考慮して対象者を絞りきること、次にチラシは上部3分の1が勝負、最後は担当者の努力だという▼それや、実際に作るイベントとチラシ作りは永遠の課題だ。チラシの仕上げ方と来場者数は正比例しないのは身染みて感じる。だけど継続は力なりを信じていくのもありかな? 継続は力なり

(中里広報委員)